

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区气象台
火山監視・情報センター

昨夜（6月30日）から本日未明にかけて、大正火口付近が高感度カメラで明るく見える現象が観測されました。この現象は、火口付近の硫黄や火山ガスが燃焼したものと推定され、噴火は発生していません。

火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、大正火口や62-2火口付近には近寄らないよう注意して下さい。また、火口から出た火山ガスが登山道まで流れてくる場合がありますので、火山ガスにも注意してください。

<噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）が継続>

○ 今回の活動概況

6月30日19時35分頃から7月1日未明にかけて大正火口付近で夜間に高感度カメラで明るく見える現象が観測されました。この現象は、火口付近の硫黄や火山ガスが燃焼したものと推定され、日の出と共に認められなくなりました。この現象前後で、火山性地震、火山性微動、地殻変動及び空振には特段の変化はありませんでした。なお、大正火口で夜間明るく見える現象が観測されたのは1989年1月以来です。

高感度カメラで明るく見える現象は、日の出と共に認められなくなりましたが、大正火口の状態に大きな変化はなく、現在も火口から出た火山ガスが十勝岳の北西斜面に流れています。

○ 活動評価

十勝岳の地震活動及び噴煙活動は概ね静穏に経過していますが、2006年からみられている62-2火口直下浅部の膨張は継続していますので、火山活動の推移に注意して下さい。



図1 十勝岳 遠望カメラ位置図及び撮影方向（赤矢印）

この火山活動解説資料は札幌管区气象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。



図2 十勝岳 6月30日22時00分頃の大正火口の状況（図1の①より撮影）



図3 十勝岳 7月1日4時46分頃の十勝岳の状況
（図1の②より撮影：北海道開発局が設置した望岳台カメラによる）
・火口から出た火山ガスが十勝岳の北西斜面に流れています。



図4 十勝岳 大正火口の状況 (図1の①より撮影)